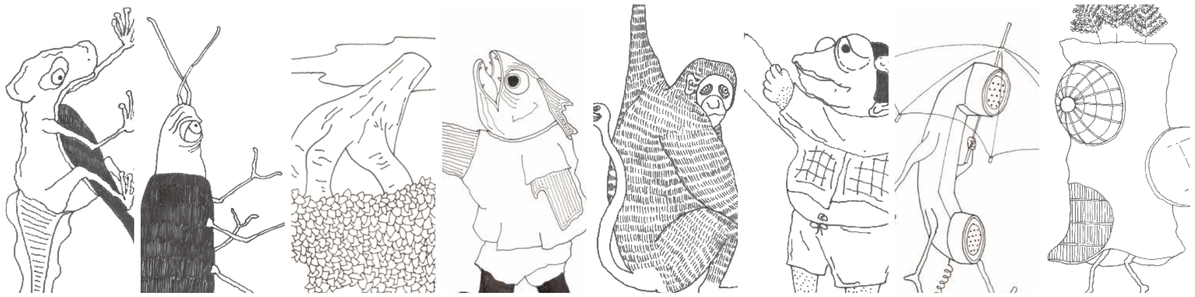


妖　怪　建　築

ー存在しないもののための建築ー

　物語の生まれる余地の少ない整えられた都市風景、存在しないものの世界を想像する必要性を感じられない世の風潮、虚と実を横断して捉えられない人々、白黒の二元論にこだわりグレーなものをグレーなままに扱えない世界へ。
　現代都市の妖怪が住む場所を収集・調査・分析した結果を、建築計画に適用することで、人の想像により補完されることで成立する空間すなわち実と虚が混在した空間を設計する。
　妖怪は現代都市に空間的痕跡を残すことで、異界から応答している。この痕跡とは極めて不気味で不思議な状態で発見され、痕跡と妖怪が結びつけられることで不気味で不思議な状態のままに理解し説明することができる。つまり、妖怪とは空間的痕跡のメタファーであり物語の代弁者である。
　痕跡と妖怪を結びつけることは、現代都市のなかに物語の定点を生む。そうした定点が増える中で、例えば異なる場所に同じ妖怪が見つかれば、その人にとっての都市のシークエンスが生まれ、また同じ場所に異なる妖怪が見つかれば、その人にとっての定点の深度が変わる。それは少し前までは人間が行ってきた当たり前の生き方であって、与えられたサービスや空間へと向かう目的を持たずに、都市へ歩き出し見えないものを見ようとし空間を見出そうとすることを今はしない。つまり、妖怪とは人間が都市を歩く時に目的とは異なる世界の連続性や連関性を与える存在であり、背反的存在として人間らしくしてくれる。
　妖怪建築は、現代都市空間の目的に対する違和感、本来の意味や機能に沿って構成される部分に対する記号性を解体しようとする部分が統合されることで成立する。つまり、妖怪建築とは、人間が空間へ近づく際の主体性を回復するためのきっかけである。

0.0 何が本当の妖怪か？

　2018 年 10 月、渋谷ハロウィンに集まった群衆によって一台の軽トラックが横転させられた。こうした事件は、社会の底で満映する不満や欲求の一表出に過ぎない。“ そこそこ良くない事 ” が許されなくなってきた世界において、本当の妖怪とは何かを問う。

↓

プロジェクトF：「塵塚怪王大作戦」

実施日：2018 年 10 月 31 日

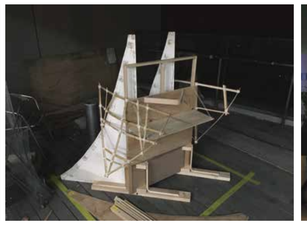
背景：企画者のいない渋谷ハロウィンを現代の妖怪現象として位置付け、妖怪の世界に妖怪建築を持ち出す。

内容：塵塚怪王に準え、廃材を集めてゴミを捨てても良い屋台を作る。妖怪建築の移動と滞在を繰り返し、妖怪現象を観察する。

妖怪「塵塚怪王」

ゴミでできたゴミを集める付喪神

2018.10.26 14:32
大学廃材所にある材料を拾って来る



2018.10.26 16:57
廃材同士を接合して屋台を作る

2018.10.31 18:30
地下鉄を使って表参道へと移動し、友人と待ち合わせる

2018.10.31 19:12
郵便物を入れるための郵便ポストの横で無視され続ける

2018.10.31 19:27
ゴミ箱よりゴミを捨ててもらえない

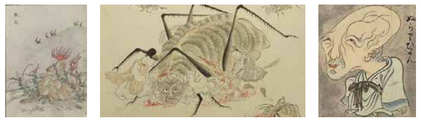
2018.10.31 20:32
目的によって都市を歩く人間から透明化してしまう

2018.10.31 21:23
道行く人は見知らぬ物に一度冷静になる

2018.10.31 21:54
無意識に立ち止まるポイントとして扱われる

2018.10.31 23:06
でっち上げられたグレーの持ち込み（＝妖怪建築）

0.1 妖怪とは？



「妖怪」

「妖怪」という言葉は、一般の人びとにとっても、研究者にとってさえも、意味があやふやである。それは文字通りに理解すれば、神秘的な、奇妙な、不思議な、薄気味悪い、といった形容詞がつくような現象や存在、生き物を意味している。
「妖怪文化入門」 著・小松和彦

「アニミズム思想」

すべてのものに霊的なものが宿っているという考え方。生きている人間と同様に感情を持ち、それ故、両義的存在である。
→この日本人思想が妖怪を始めとする“存在しないもの”の虚構性（でっち上げ）の根本にある。

「異界」

妖怪の棲む世界。日常空間と重なり、あるいはその周辺に広がる非日常空間。
時空間の向こう側とされる領域。

「付喪神」

“ 器物は百年経ると化ける ” と言う俗信から、かつて日本では古い器物を九十九年で捨てる事が多く、多くの古い器物が“ あと一年で命を得られたものを ” と恨みを抱いて変貌した妖怪。

「百鬼夜行絵巻 真珠庵本」より一部抜粋

背景として、中世室町時代の京都での“ 消費社会が進んだ都会 ”
→妖怪とはその時代ごとの社会背景の裏返しとして表現されてきた。

0.2 妖怪の歴史

古代

→神話上の存在・国づくりのきっかけ・朝廷の敵に対する蔑称・化け物退治の対象

中世

→貴族の政治事情や恋愛物語の悪役の末路・屋敷内での憑き物・辻や橋など場所性の獲得

近世

→江戸という中心都市の誕生・都市では「化け物屋敷型」と「徘徊型」の二種類・絵巻からカタログ化したことでキャラクター化（妖怪の大量生産）

近代

→墓や学校や病院など、死と結びついた場所（プログラム）に出現・都市型犯罪との関連（見知らぬ人による奇行）・恐怖心のみを煽るホラー

現代

→現代の妖怪はどこに出現しているのか・何が妖怪存在を連想させる妖怪現象として捉えられるか

現代の境界論をどう定義し、妖怪と建築をいかに接続・切断できるのか？

0.3 妖怪の造られ方

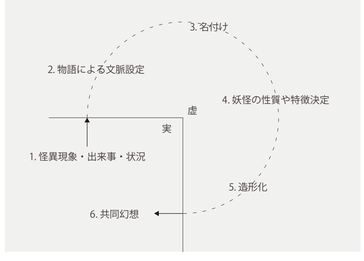
妖怪の見つかる怪異現象は以下の三つに分類される。

① 現象
不思議な出来事を説明する妖怪

② 存在
超自然災害の原因とされる神秘的妖怪

③ 造形
霊魂を込め造形化された妖怪

「虚の組立」



見つかった怪異現象は説明のできない実であり、それを理解するための虚を作り上げる。
論理が通っている虚の連続が現実と現実を繋いでいる、というのが妖怪の造られ方のお約束事である。

人間をモデルとし
その身体の一部を変形する。

非人間であるものを人間的な身体性に近づけ、
異なる動物の部分や道具を寄せ集める。

0.4 共生の建築言語

自分たちの住む中心から見て周辺部、認識論的に言って
暗く曖昧な、それ故危険な空間に妖怪は潜んできた。

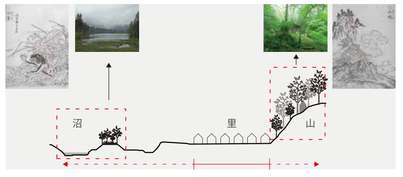
辻

橋

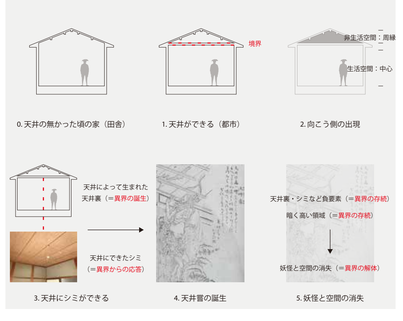
森

厠

墓



例えば、里という中心を人間の住むところと考えるために、沼には
河童がおり山には天狗や山姥が棲んでいると見做してきた。



0.5 二十一世紀の妖怪

妖怪は通時的な造形や性質を各時代の社会的文脈に合わせて
変形・位相させることで存命してきた。

「天井下」（今昔画図続百鬼・鳥山石燕）
↓
夜中に突然天井から現れるこの妖怪は、昔、天井が死体を隠す場所として使われていたり、女性が監禁されていたりしたという文脈を反映したものである。
↓
③通時的な造形や性質「逆さまの女性」

位相

逆立女

ラブホテル街の裏通りに、女性用の下着が脱ぎ捨てられている。不思議なのは、ブラジャーが下に落ちており、パンティーが上に置かれていることである。ここではお尋ず脱衣した女性は、きっと逆立ちをするように、頭を下に向け脚を上に上げながら脱衣していたに違いない。

①現代都市での出来事　②あり得たかも知れない物語

妖怪を探偵する

現代都市のあらゆる場所に表出した不在の痕跡を辿る。
現代都市の出来事に対して「虚の組立」を用いることで、妖怪の［物語・名前・性質・造形］を突き止める。

0.6 二十一世紀百鬼夜行

21 世紀の現代都市で起きている不気味な出来事（不在の痕跡）を辿り空間的把握を試み続ける。妖怪たちを多面的かつ分類することで、虚を通した連関性が生まれ、現代都市空間の意味を多義的に解釈できる。

ex1). 荷亀

ホームレスに寄り添う妖怪「荷亀」はある一定範囲で度々目撃される。さらに、発見された状態や止まっている時や動いている時や眠っている時など、様々である。名も無き場所の間に妖怪がシークエンスを与えてくれる。

2018.6.12 a.m.1:54　根岸二丁

2018.8.28 p.m.9:33　根岸一丁

2018.10.10 a.m.2:23　上野公園

2018.10.30 a.m.2:40　根岸一丁

ex2). 缶に関する妖怪たち

缶に関する妖怪たちは、現代都市のあらゆる場所で発見される。例えば「蓋被り」は、自分の蓋の中から逃げ出した缶たちを集めに走り回っている。他にも、「関缶」は主人の空間を所有し続けるために居ついていたり、「缶ぼぼたん」は石鹸の上でのんびりとしていたりする。缶に関する妖怪たちは、まさにそれぞれの意思を持って現代都市で移動と滞在を繰り返す付喪神である。

蓋被り

関缶

缶ぼぼたん

ex3). 傘に関する妖怪たち

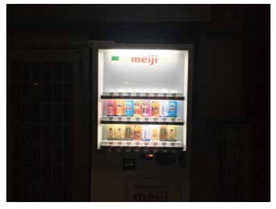
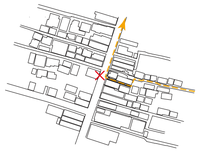
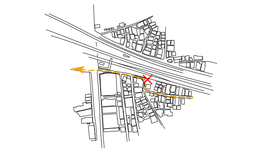
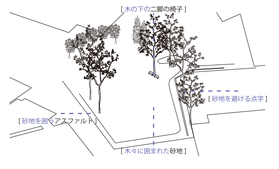
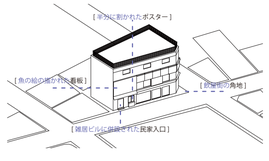
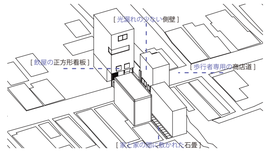
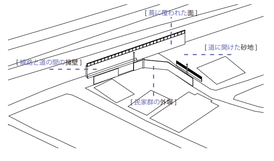
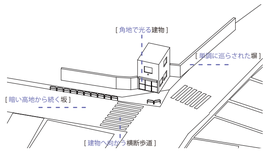
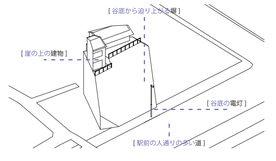
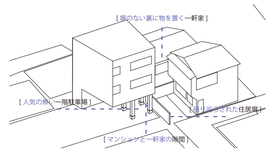
現代の都市空間に持ち出せば、多くの確率で無くなってしまう傘たちは、どこに連れて行かれてしまったのか。傘を連れ去っては溜め込む一族が各地に散らばっているのであろうか。

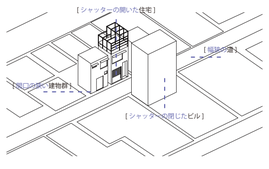
傘知り標識

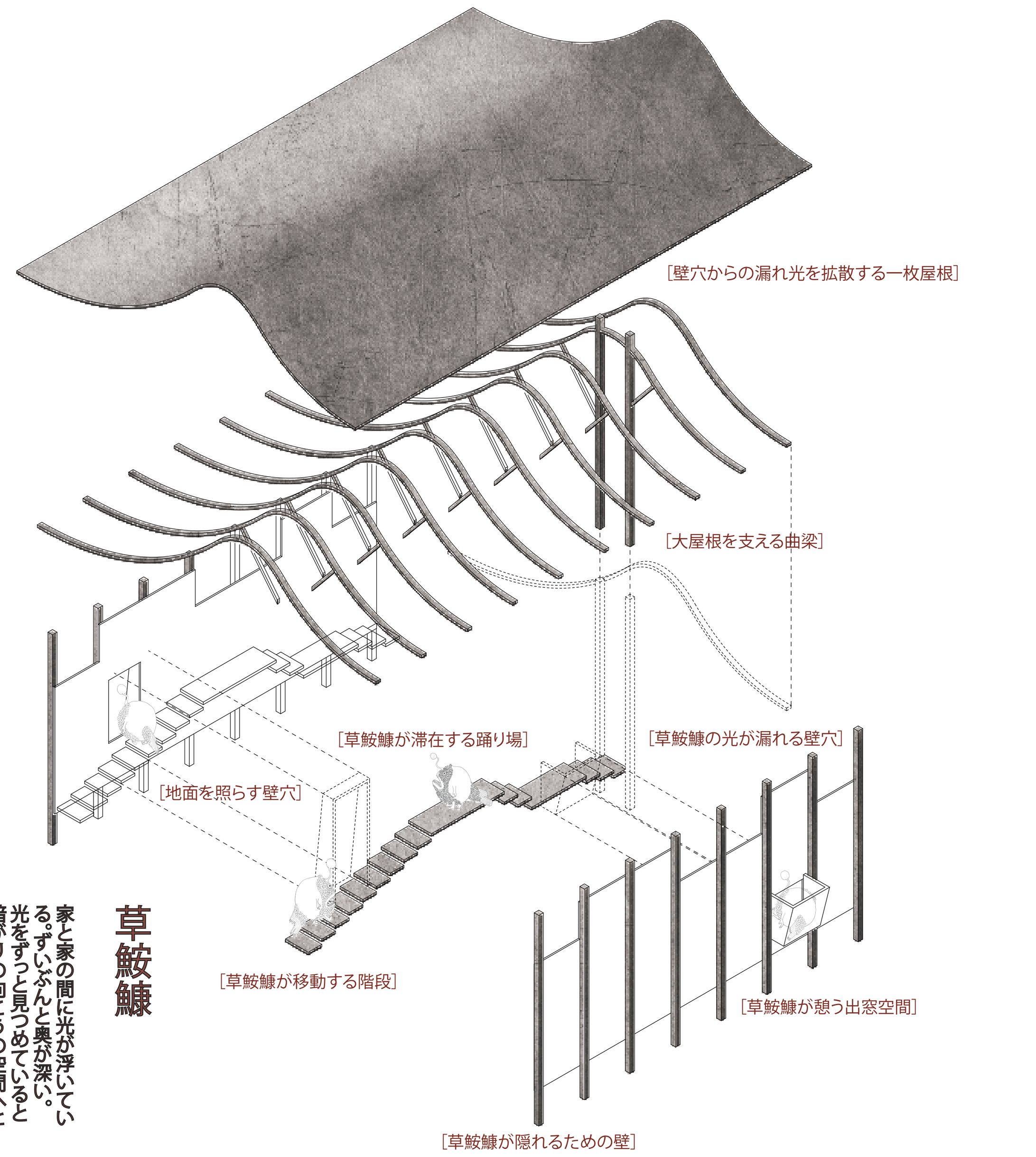
傘掛け配管

傘取り受話器

傘喰い鉄骨

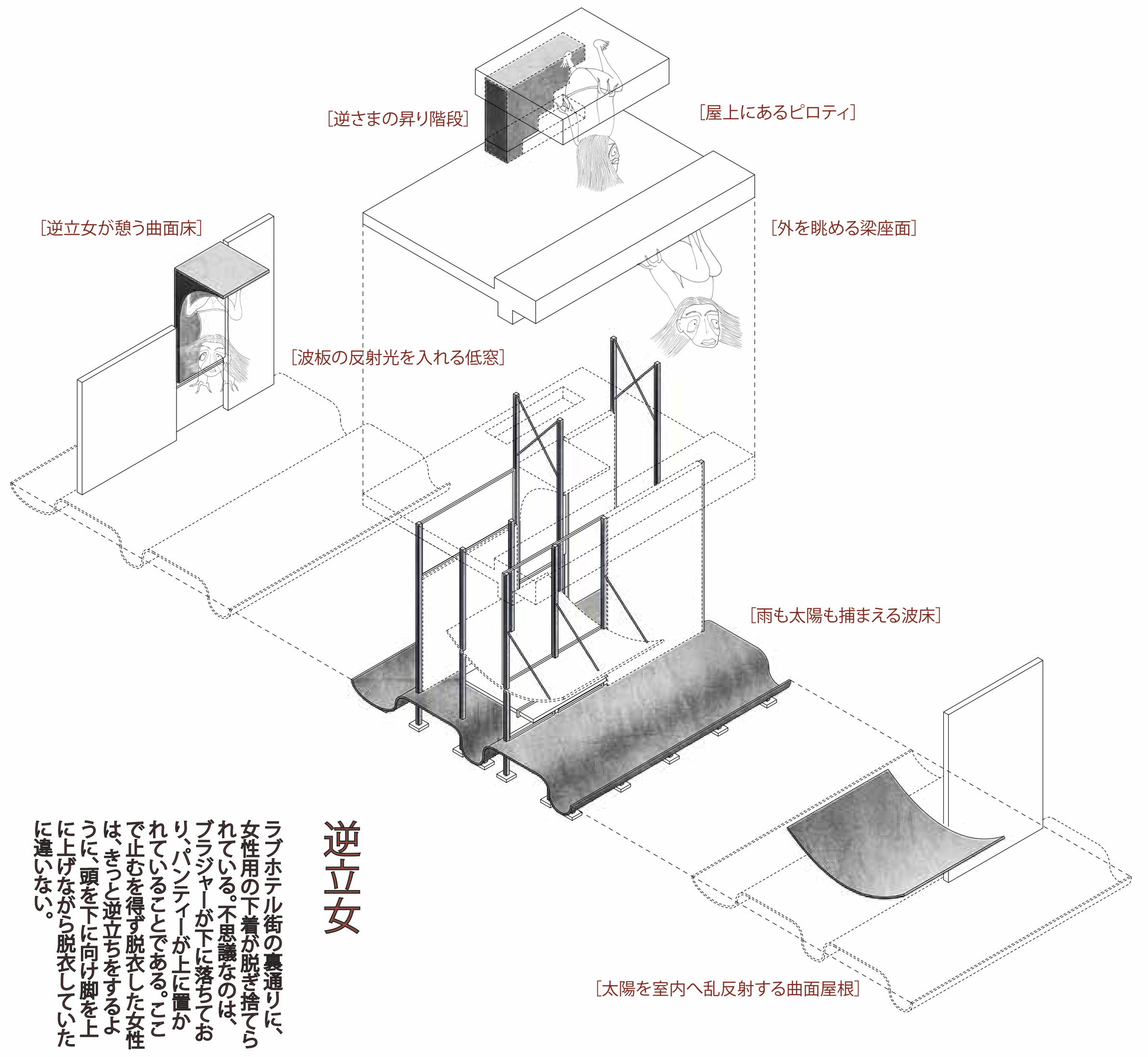
怪異現象・出来事・状況								
物語	雨の降り続く夜、傘をさして夜道を歩いていると、何やら鈍い雨音が聞こえてくる。「ボトボトボト」と鳴る音は、明らかにアスファルトの雨音でもトタン屋根の雨音でもない。その音のする方、丁字路に近づくと誰かが倒れている。辺りを警戒しながら足取り重く近づくと、そこにはズタズタに切り裂かれた段ボールが雨に打たれ続けていた。	ある丁字路に差し掛かる手前に、道路の両側に渡って大量の荷物が置かれている。どうやら店先の品物が軒下だけでなく、道路を跨いで置かれているらしい。店の前を通り過ぎると、後ろの方から罵倒と何かが動く音がした。人影はないが、軒下の品がまた一つ道路の向こう側へと運ばれていた。	雨の日になると、いつも渡るのに苦労する歩道橋があると言う。歩道橋の階段を登るときも降りる時も問題はないが、踊り場だけはなぜだか雨水が流れずに溜まり続け、思わず足を止めてしまう。上手く水深の浅い端を通りながら階段を進み続けると、たばこの吸い殻が踊り場から溢れ出て追いかけてくると言う。	ある自動販売機では、棚全てが商品で満たされることがないと言う。ある夜に見た時には、三段目の商品が丸々無くなっていて、また別の夜に見た時には各段所々の商品が消えていたと言う。しかし不思議なことに、商品が無くなった所のボタンを押すときちんと商品は出てくる。こうした不思議な出来事が起きる自動販売機は、いつも白い紙が背景のものであると言う。	マンションの壁が一部、出っ張って見える。その出っ張り壁の前には、丁寧に並べられた長靴と、荷物の入った小さな段ボール箱が置かれている。よく見ると、公道から一段分の床が敷かれており、出っ張り壁には三寸程の厚みがある。細かいタイル目地が規則正しく貼られた出っ張り壁は、ただただ静かにお休みになっている。	いつも人影の無い建物の前に、雨水を溜めるためのコンクリート槽と生い茂った植物がある。コンクリート槽の上には、いつも少しだけ水の入ったコップが置かれているが、溜めた雨水を植物のところまで運ぶのに使うのだろうか。おや、コンクリート槽の上に置かれたトタン板が、ここへ来た時より少しだけズレて隙間が見える。	道沿いに建てられた太い柱と柱をつなぐ八本の線は絶対に切ってはいけない。あの線があることで、何千里も先の人と人が意思疎通を図ることができるからだ。発信された意思を一瞬のうちに届けてしまう超速の蛇たちのおかげである。
移動経路と遭遇場所								
周辺の空間構成							
妖怪造形								
妖怪名	段ボール辻斬り	飛蓮脚	たばこみ	蜘蛛の膜	つきかべ	汲水鳥	送電小蛇	

怪異現象・出来事・状況								
物語	かつて自転車のサドルだけが無くなる事件が多発した頃もあったが、乗り物は時折、部分的に無くなってしまう。車庫のシャッターを閉める時は、きちんと全車体を中に入れて閉め切らなければ、朝起きて見た時に車のボンネット部分だけが無くなっていると言う。	ある開けた場所に、もうかれこれ一ヶ月近くブルーシートに包まれた物体が置かれている。高さが四メートルほどもある巨大な物体である。シートの下の部分から丸い足のようなものが顔を覗かせている。そういえば昨日よりも少しシートがめくれて位置も左に移動したように見える。	街中の壁面に貼られたポスターに落書きなどの悪戯をすると、その部分が鋭利な刃物のようなもので綺麗に半分切り取られる。ポスターを切り取るのは、その悪戯をした人間を突き止めるためだと言う。悪戯をした人間は、近いうちに夜道に着ている服を半分切られてしまうと言う。	建物と建物の間にある石畳の上に光が差し込んできている。その光源の形も石畳にとても良く似ている。この道を通り抜けるには、この光源が示すように必ず石畳の上を歩かなければならない。石畳から外れて抜けてしまった人は、そのまま光源の下の店へと引きずり込まれていってしまう。	線路沿いの抜け道の脇に、鬱蒼と生い茂った蔦の葉が壁を覆っている。この壁際は人目にも付かず、周りに比べて少し暗くなっている。二人くらいなら身体をくっつけて隠れられそうだ。蔦の葉に覆われた巨大な何かに包まれるように。	人気のない夜道の角に、ランプの付いた誰も居ない部屋がある。中へ入ってみると、電話番号の書かれた書き置きがあり、その番号へ電話を掛けてみると、中年の男の声で「すぐそこへ向かう」と言われる。すぐに逃げなければ、数時間この部屋に閉じ込められてしまい、身元が照会できるまでここから出られないと言う。	谷のように深く掘り下げられた道沿いの崖が、大きな影に覆われている。この影はとても重たく、谷底に落ちて来ようとしているのを影柱が支えている。影が影を持ち上げることで谷底の道は明るく歩行者が安心して通れるようになっている。	三階建マンションの駐車場奥に、裏の建物につながる秘密の隙間がある。幅一メートルの土を跨ぐと、外壁が取り除かれた建物裏へと越境できる。そこに置かれた白い箱はいつも少しだけ開いていて子供が入って隠れられそうな空間がある。ここが噂の秘密の入り口である。
移動経路と遭遇場所								
周辺の空間構成								
妖怪造形								
妖怪名	前頭車	布御輿	刃二漢	手手沼	夜顔	檻歯	影持柱	建物間童子



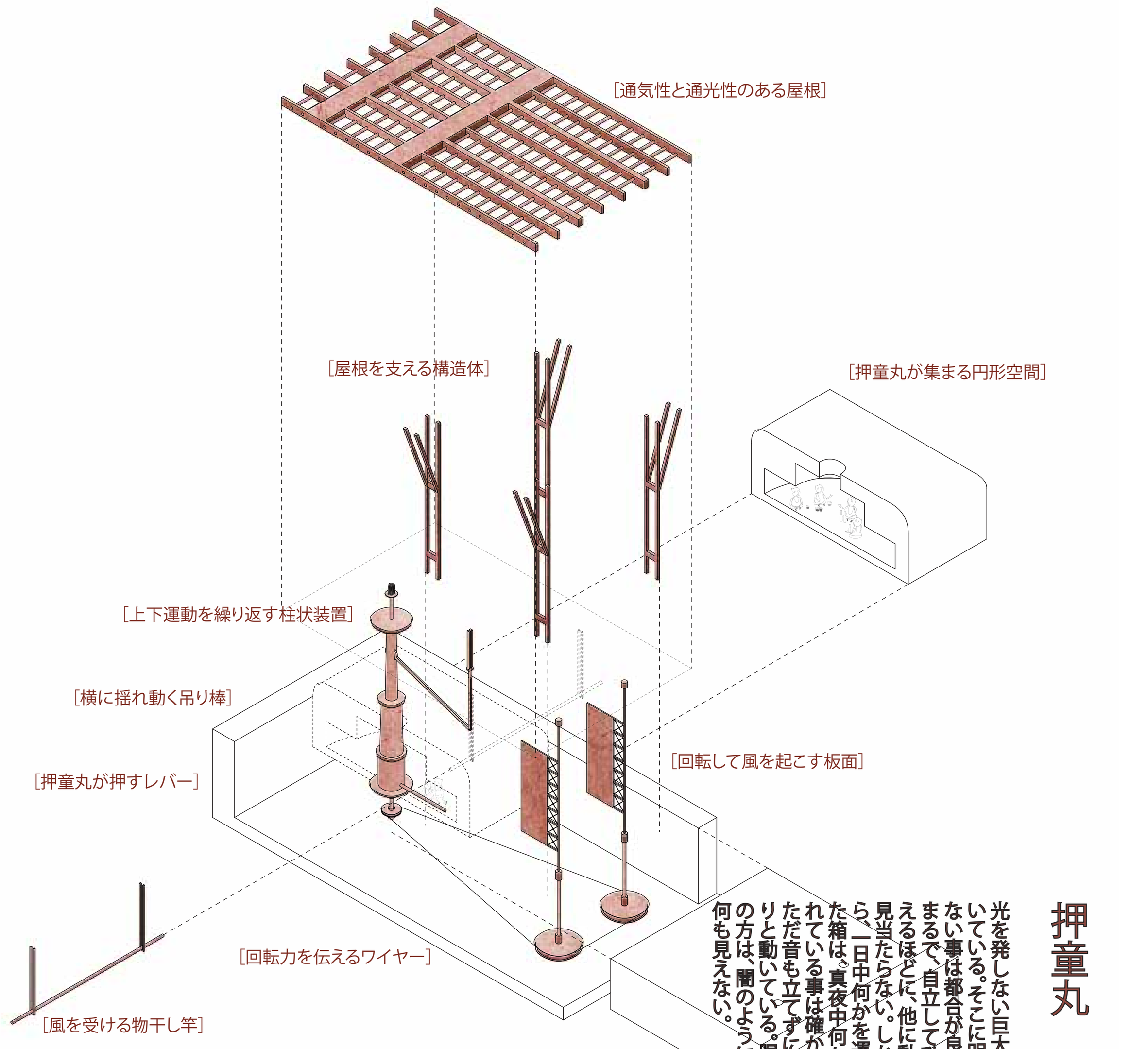
草鮟鱇

家と家の間に光が浮いている。ずいぶんと奥が深い。光をずっと見つめていると暗がりの向こうの空間へと誘われるかのようである。光の周りを葉が覆っており眩しさが少しだけ和らいでいる。



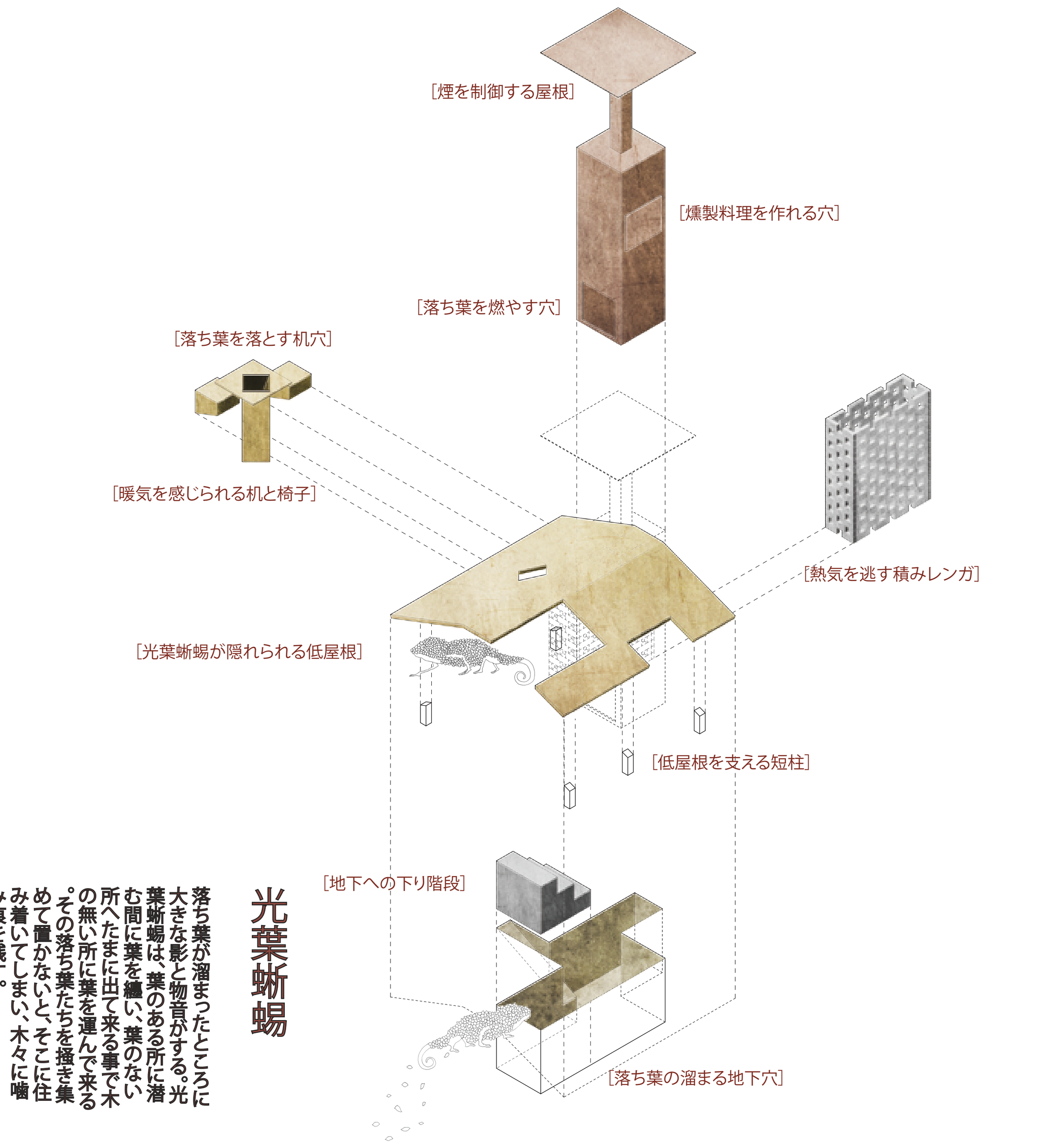
逆立女

ラブホテル街の裏通りに、女性用の下着が脱ぎ捨てられている。不思議なのは、ブラジャーが下に落ちており、パンティーが上に置かれていることである。ここで止むを得ず脱衣した女性は、きっと逆立ちをするように、頭を下に向け脚を上に上げながら脱衣していたに違いない。



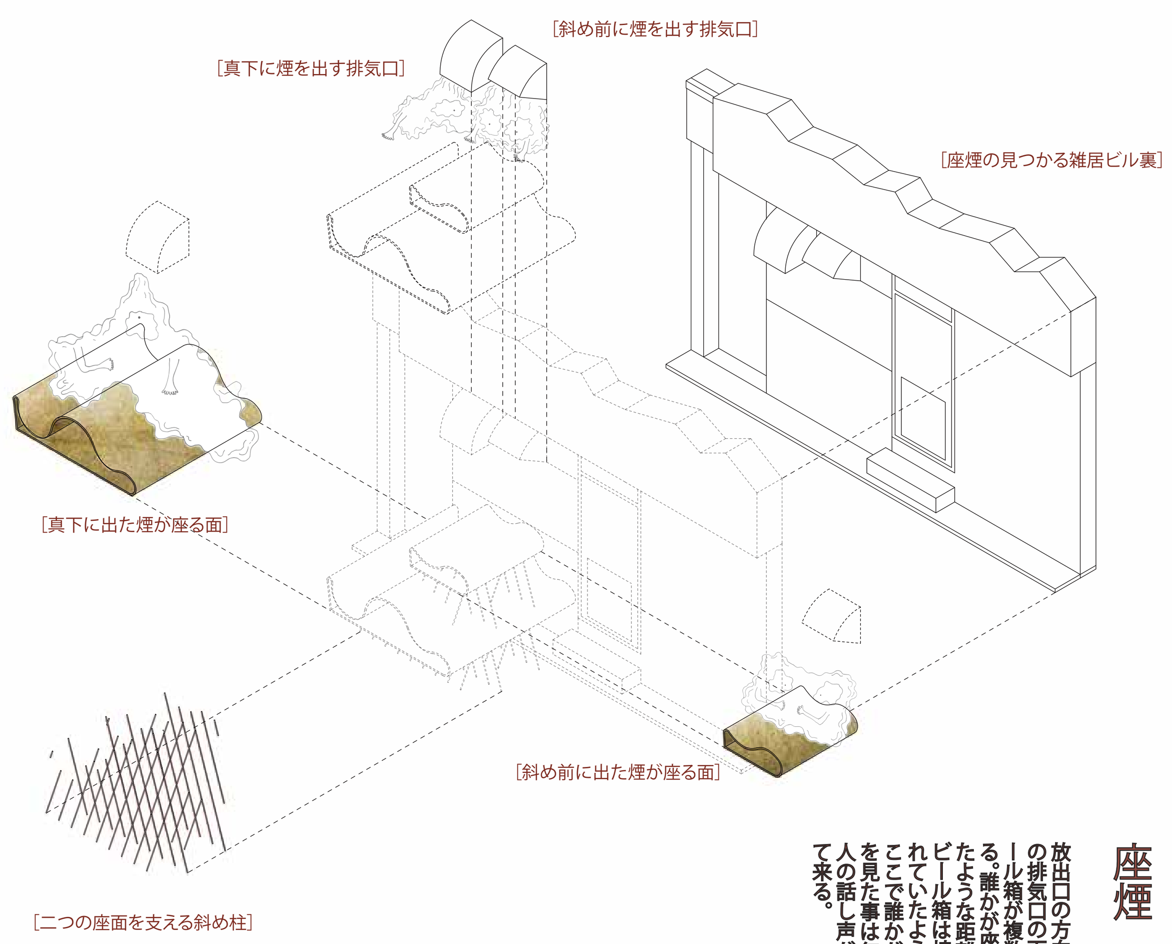
押童丸

光を発しない巨大な箱が動いている。そこに明かりがない事は都合が良かった。まるで、自立して動いて見えるほどに、他に動力源が見当たらない。しかしながら、一日中何かを運び続けた箱は、真夜中何かに運ばれている事は確かである。ただ音も立てずに、ゆっくりと動いている。胴体の下の方は、闇のように暗くて何も見えない。



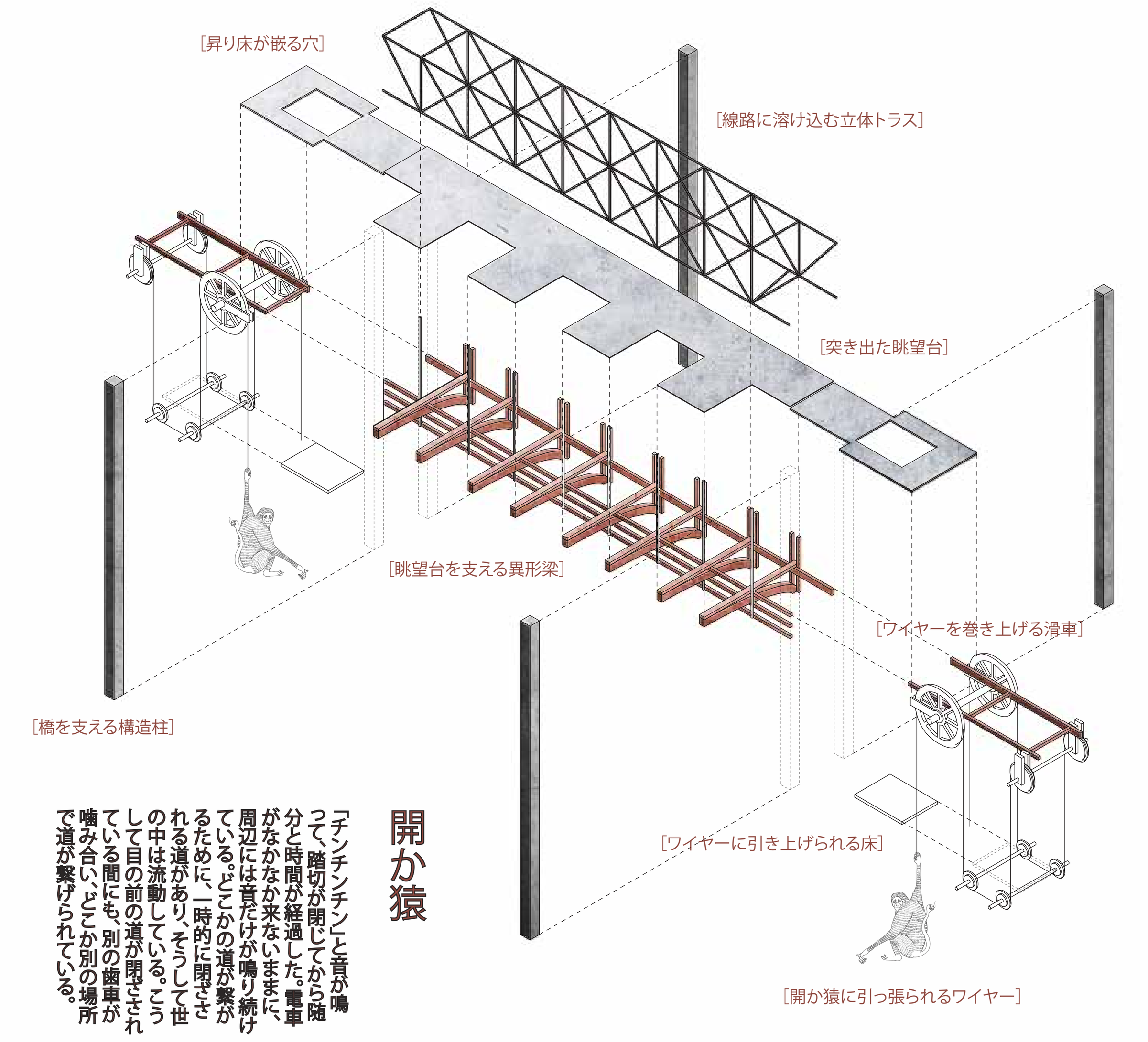
光葉蜥蜴

落ち葉が溜まったところに大きな影と物音がする。光葉蜥蜴は、葉のある所に潜む間に葉を纏い、葉のない所へたまに出て来る事で木の無い所に葉を運んで来る。その落ち葉たちを掻き集めて置かないと、そこに住み着いてしまい、木々に噛み痕を残す。



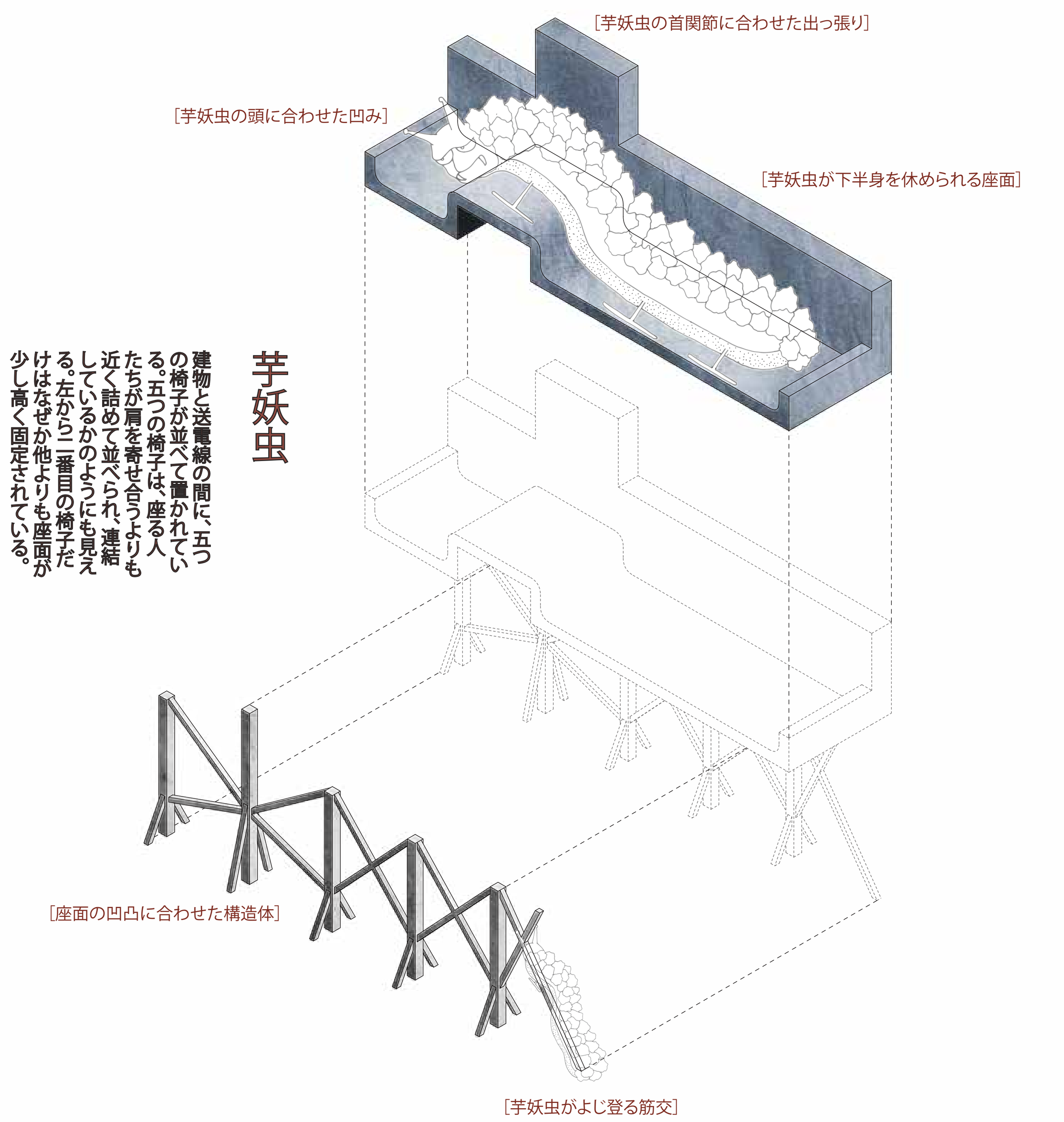
座煙

放出口の方向が異なる二つの排気口の下に、いつもビール箱が複数個置かれている。誰かが座って話していたような距離感で置かれたビール箱は椅子として使われていたようにも見える。ここで誰かが座っているのを見た事は無いけれど、二人の話し声がたまに聞こえて来る。



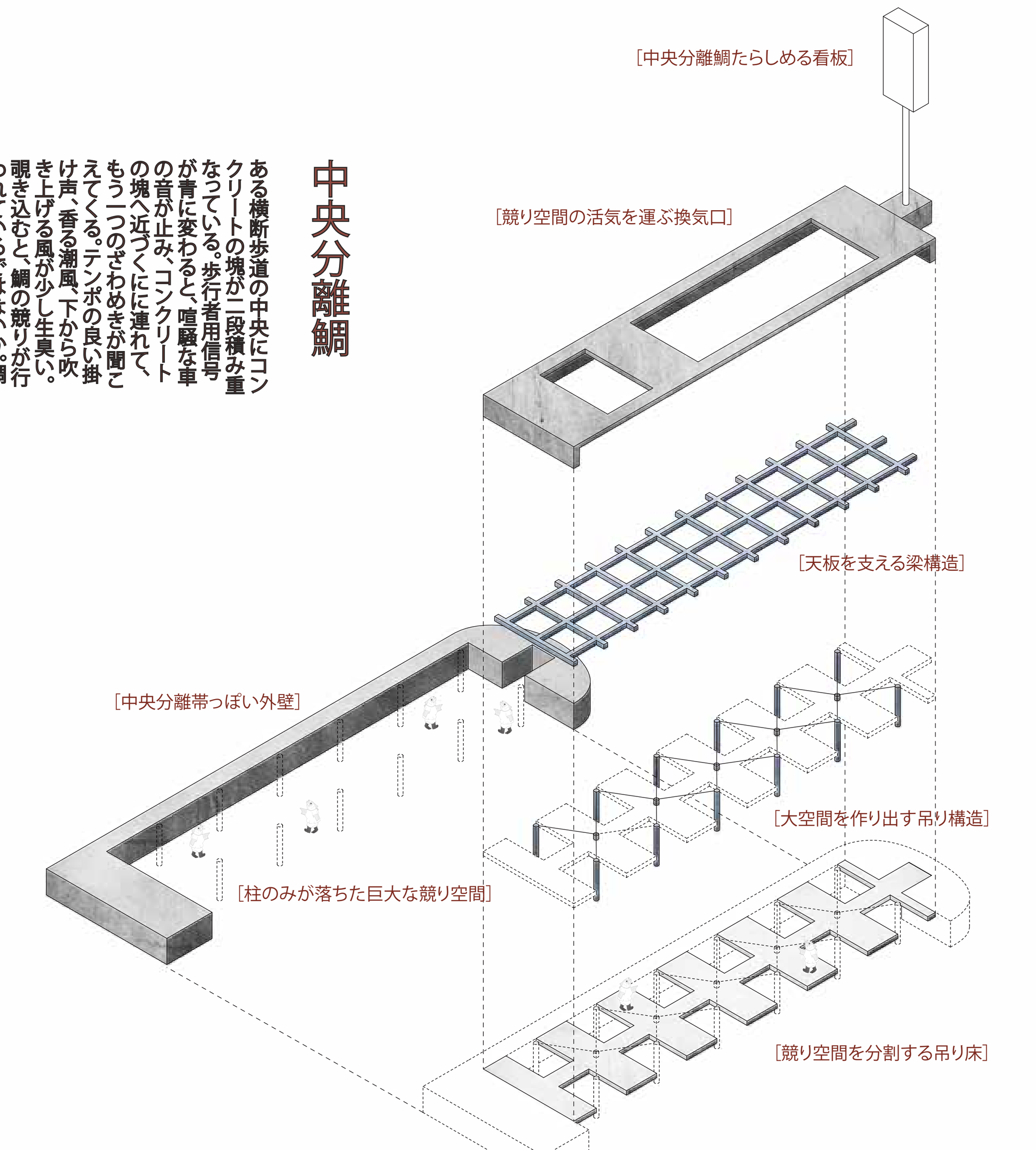
開か猿

「チンチンチン」と音が鳴って、踏切が閉じてから随分と時間が経過した。電車がなかなか来ないままに、周辺には音だけが鳴り続けている。どこかの道が繋がるために、一時的に閉ざされる道があり、そうして世の中は流動している。こうして目の前の道が閉ざされている間にも、別の歯車が噛み合い、どこか別の場所で道が繋げられている。



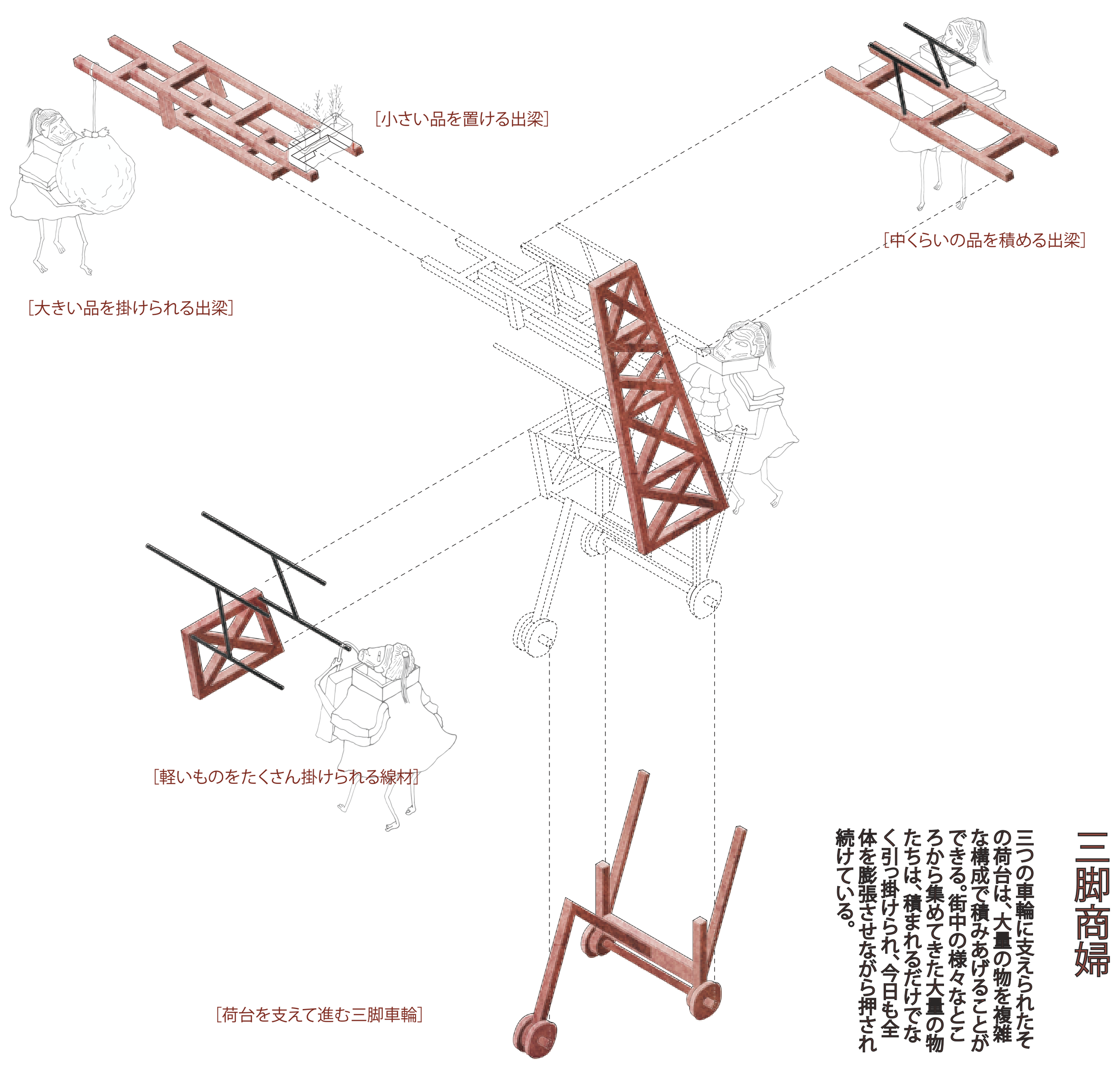
芋妖虫

建物と送電線の間に、五つの椅子が並べて置かれている。五つの椅子は、座る人たちが肩を寄せ合うよりも近く詰めて並べられ、連結しているかのようにも見える。左から二番目の椅子だけはなぜか他よりも座面が少し高く固定されている。



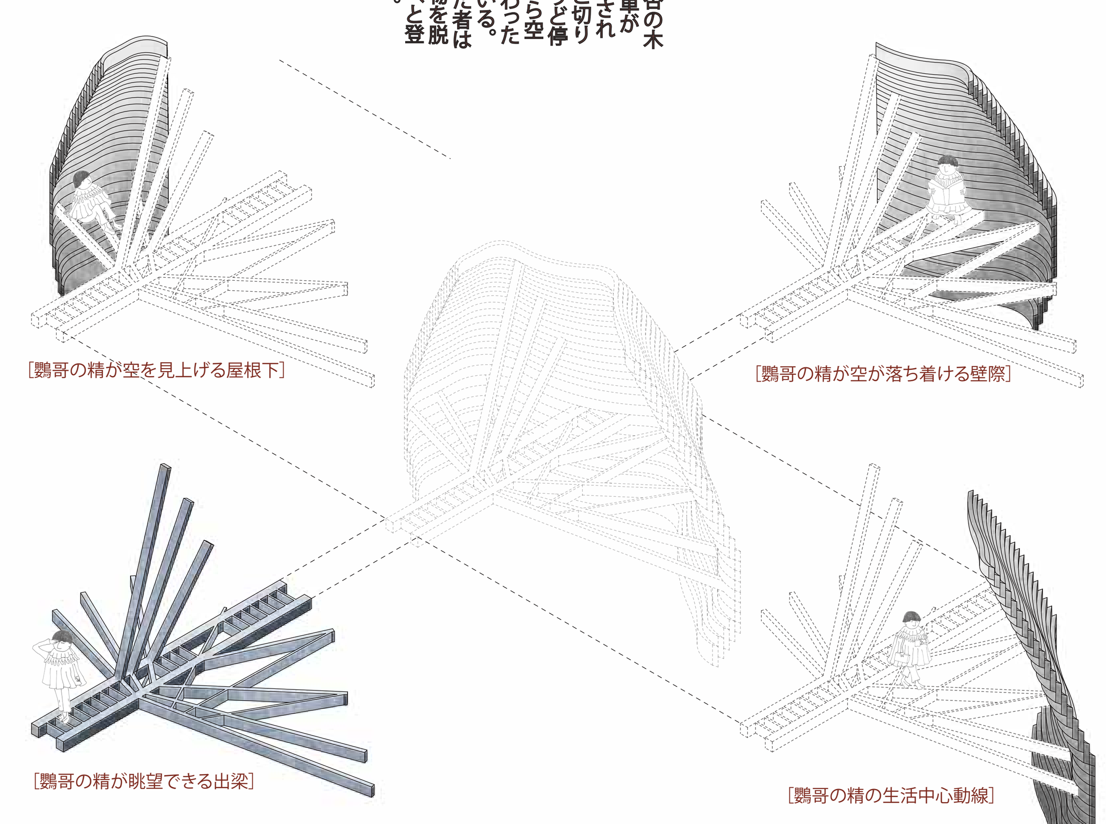
中央分離鯛

ある横断歩道の中央にコンクリートの塊が二段積み重なっている。歩行者用信号が青に変わると、喧騒な車の音が止み、コンクリートの塊へ近づくにに連れて、もう一つのざわめきが聞こえてくる。テンポの良い掛け声、香る潮風、下から吹き上げる風が少し生臭い。覗き込むと、鯛の競りが行われているではないか。鯛による競りが。



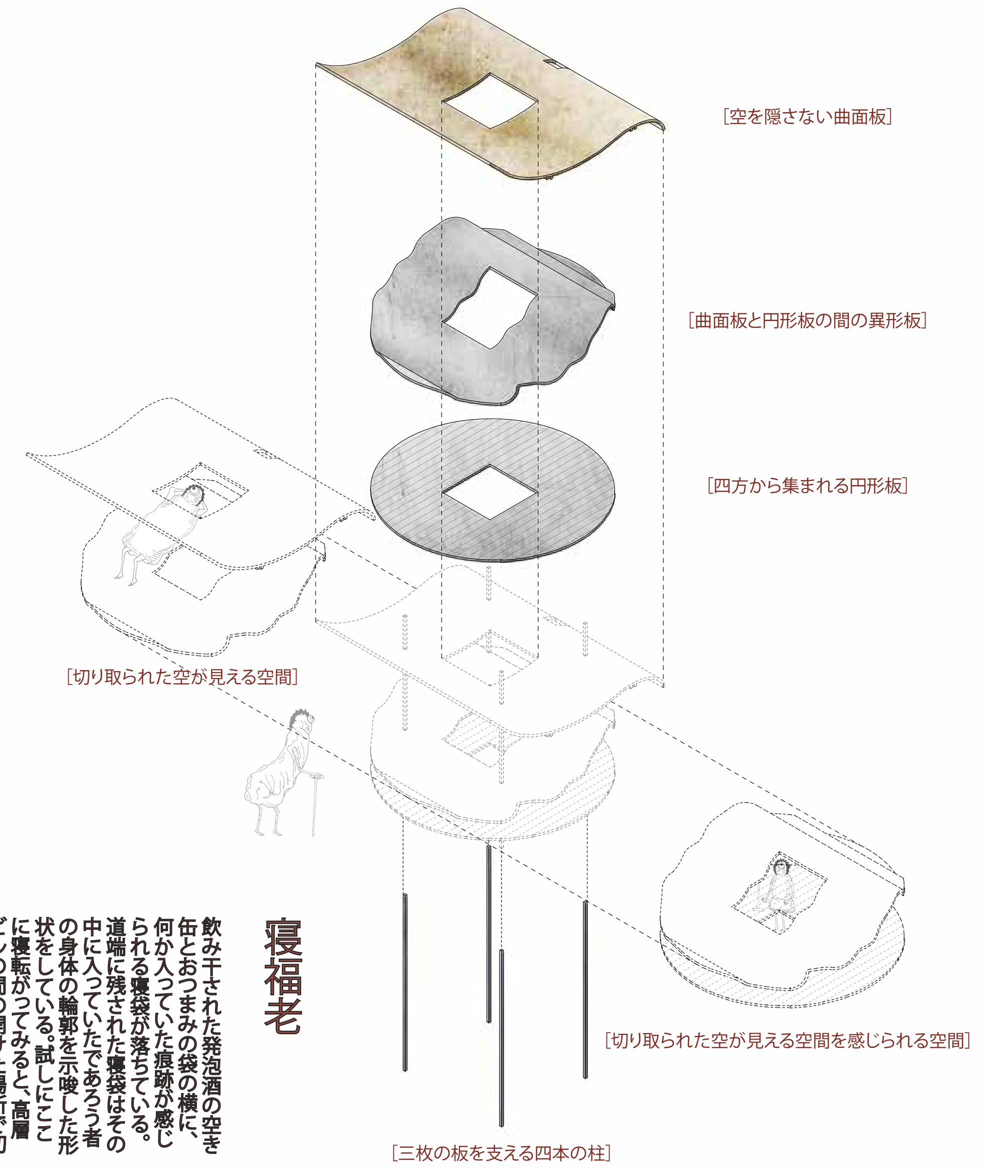
三脚商婦

三つの車輪に支えられたその荷台は、大量の物を複雑な構成で積みあげることができる。街中の様々なところから集めてきた大量の物たちは、積まれるだけでなく引っ掛けられ、今日も全体を膨張させながら押され続けている。



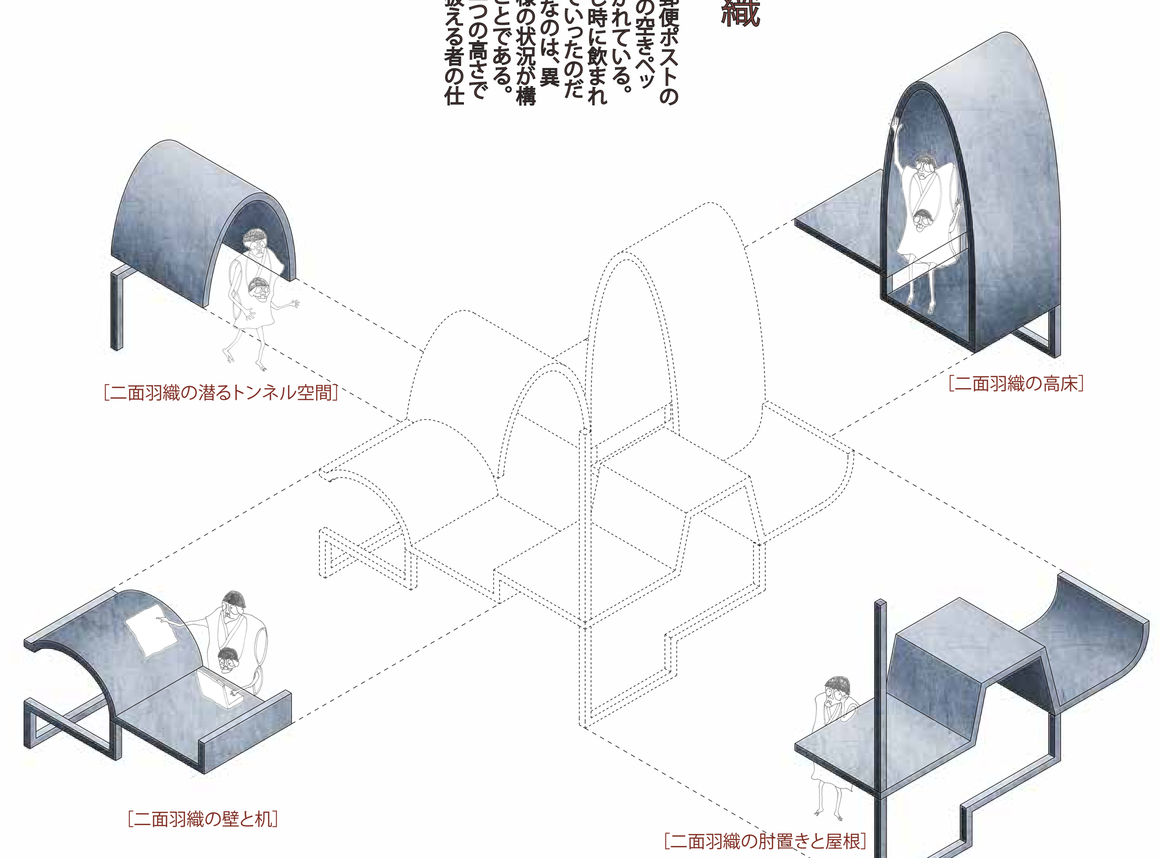
鸚哥の精

公園の中の大きな銀杏の木の手前に、一台の自転車が停められている。舗装されたタイル面から土へと切り替わるところにちょうど停められており、ここから空間の内と外が切り替わったものとして扱われている。ここに自転車を停めた者はきっとここで心の履物を脱いで銀杏の木の上方へと登って行ったに違いない。



寝福老

飲み干された発泡酒の空き缶とおつまみの袋の横に、何か入っていた痕跡が感じられる寝袋が落ちている。道端に残された寝袋はその中に入っていたであろう者の身体の輪郭を示唆した形状をしている。試しにここに寝転がってみると、高層ビルの間の開けた場所で切り取られたような星空を眺めることができる。



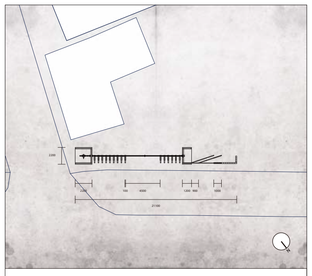
二面羽織

異なる高さの郵便ポストの上に、同じ種類の空きペットボトルが置かれている。同じ場所で同じ時に飲まれた後に置かれていったのだろうか。不思議なのは、異なる高さに同様の状況が構築されていることである。きっと異なる二つの高さで同時に空間を扱える者の仕業に違いない。

妖怪の潜む門

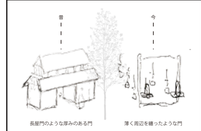
現代の門の周辺環境で見られる妖怪の痕跡から、妖怪が滞在できる幅狭の建築を設計する。

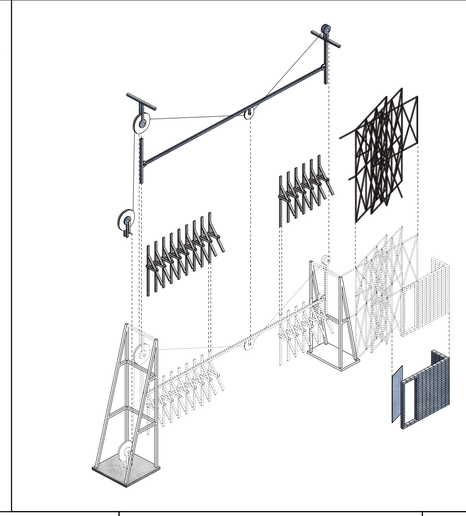
通り抜けできる建築　造園会社入口　建替

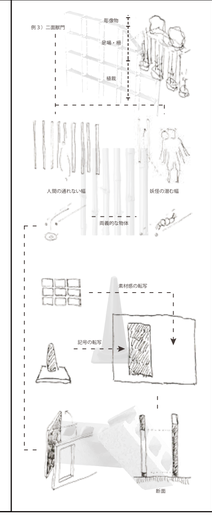


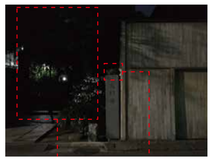
「妖怪の潜む門」 一階平面図 (1/400)

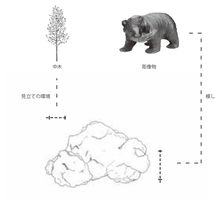
「妖怪の潜む門」 立面図 (1/400)



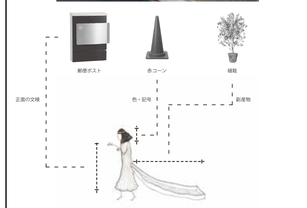




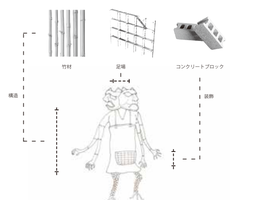




門前石



土尾女門

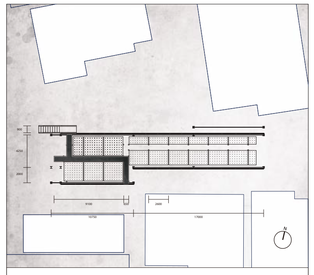


二面獣門

凧の養生倉庫

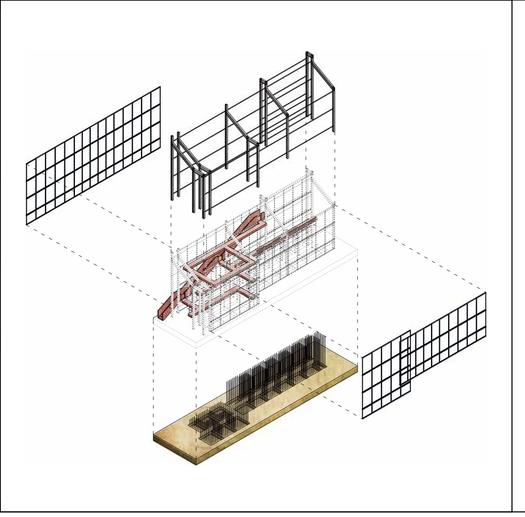
現代都市を移動する妖怪建築が育つまで保管され続けている建築を設計する。

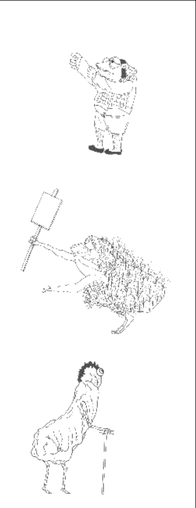
外を眺められる建築　根岸住宅街空き地　新築

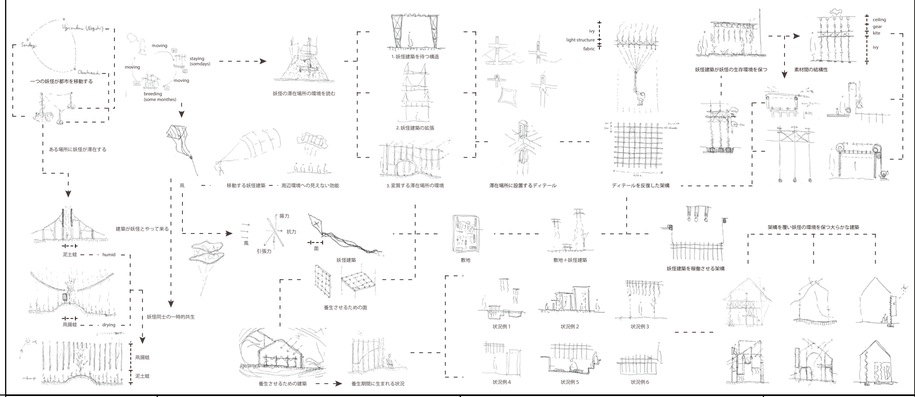


「凧の養生倉庫」 一階平面図 (1/400)

「凧の養生倉庫」 断面図 (1/400)



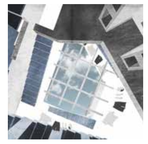


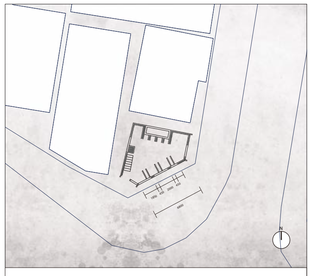


いけずの館

街区の角地で見つけた妖怪の痕跡から、妖怪たちが角地に居続けられる建築を設計する。

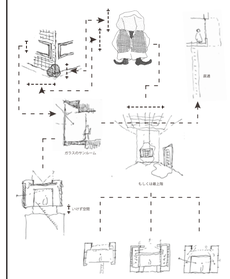
洗濯物を干せる建築　角地の廃墟ビル　改修

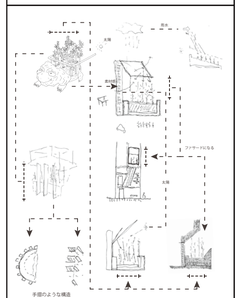


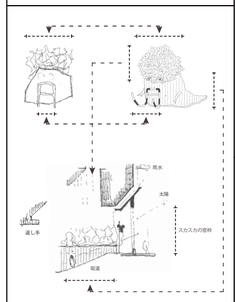


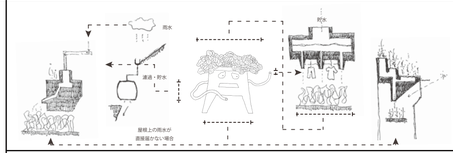
「いけずの館」 一階平面図 (1/400)

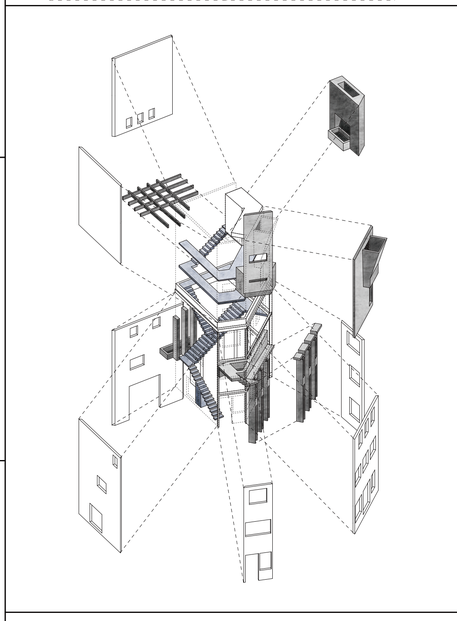
「いけずの館」 断面図 (1/400)

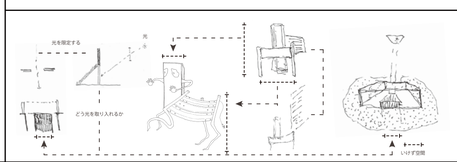


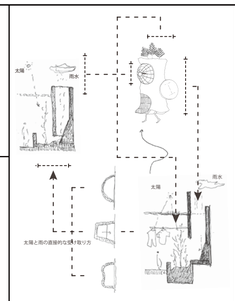


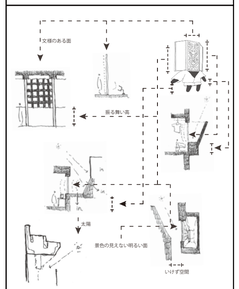


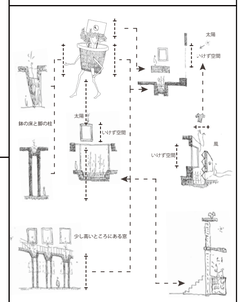








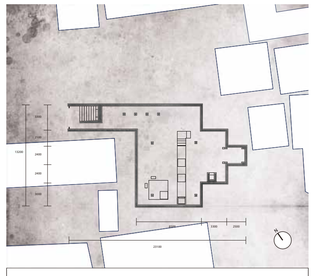




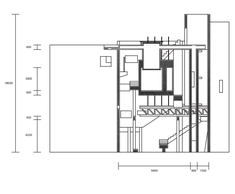
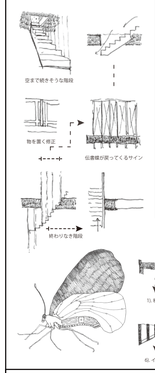
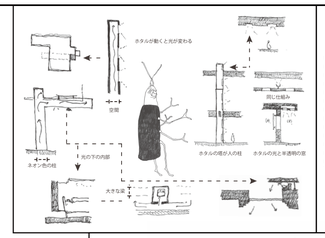
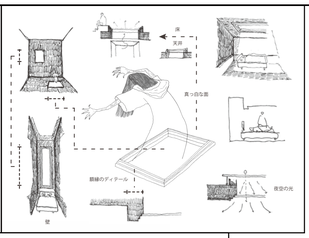
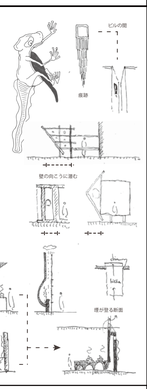
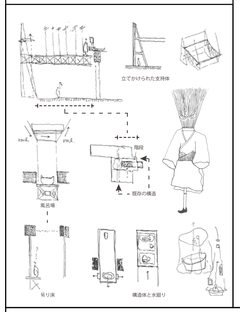
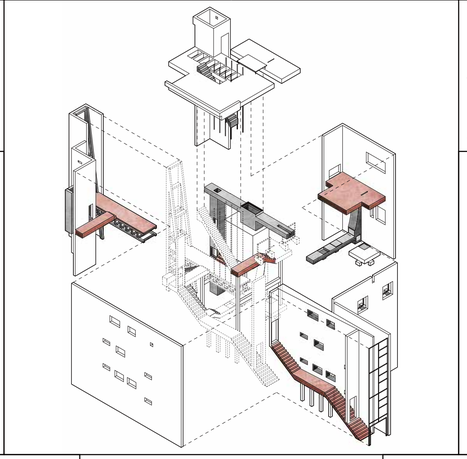
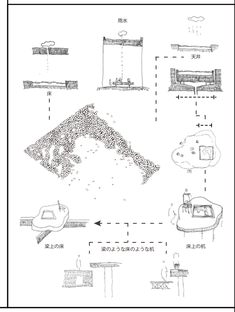
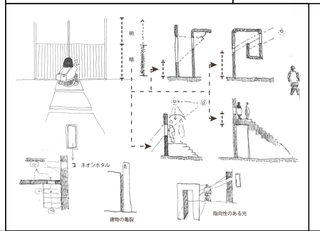
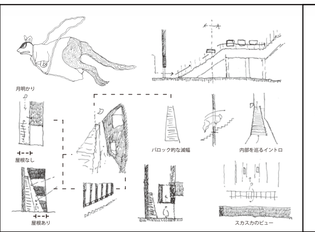
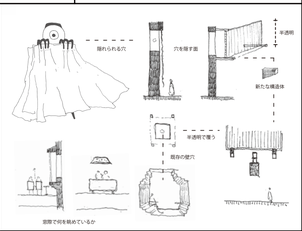
妖怪たちの家

一年間を通して見つけた妖怪の痕跡から、妖怪たちが帰って行く建築を設計する。

青姦できる建築　鶯谷ラブホテル街　改修



妖怪たちの家　一階平面図 (1/400)



「妖怪たちの家」 断面図 (1/400)